

経営発達支援計画

H30年度 伴走型小規模事業者支援推進事業

商工会への支援ニーズ・個社の課題発掘調査レポート

地域経済動向調査レポート

～京丹後市版～

(平成30年4月～6月)

京丹後市商工会

商工会への支援ニーズ・個社の課題発掘調査レポート

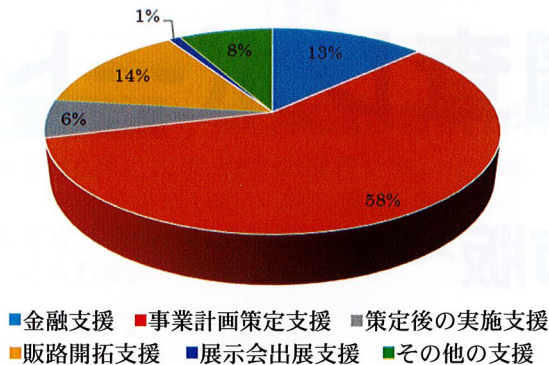
－それぞれの個社の課題を踏まえた支援ニーズ調査編－

2018年7月31日

<調査概要>

【調査目的】個社の事業課題を把握すると共に、地域経済動向調査を併せて実施することで、事業者との関わり頻度を増やし、支援ニーズに沿った施策活用提案など支援の依頼機会の創出を目的として実施するものです。
 【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2018年4月～7月 【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

商工会へ求める支援ニーズ



<事業計画策定支援について>

補助金活用の提案も含めた支援を求める声が多かった。

<販路開拓支援について>

インバウンドも含めた海外への販路開拓支援を求める声が多かった。

<その他>

素早い情報提供を求める声が多かった。

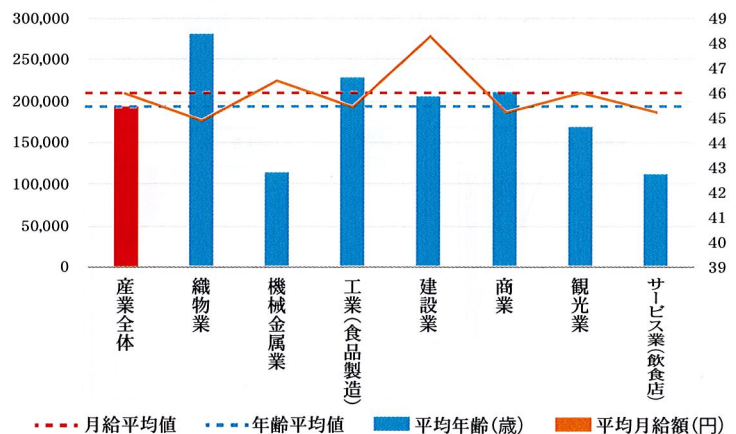
労働環境面調査 －従業員1名あたりの平均月給編－

<調査概要>

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査項目】従業員の平均年齢及び平均月給額 【対象期間】2018年6月 【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査 【有効回答数】従業員の平均年齢62社、平均月給額51社

業種別従業員平均年齢・平均月給額比較表

業種	平均年齢(歳)	平均月給額(円)
産業全体	45.4	207,983
織物業	48.3	175,946
機械金属業	42.8	224,148
工業(食品製造)	46.6	192,000
建設業	45.8	278,091
商業	46.0	187,120
観光業	44.6	209,171
サービス業(飲食店)	42.7	185,600



地域経済動向調査レポート－京丹後市版－

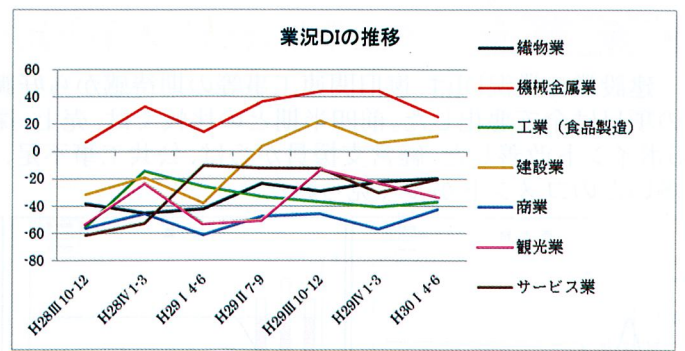
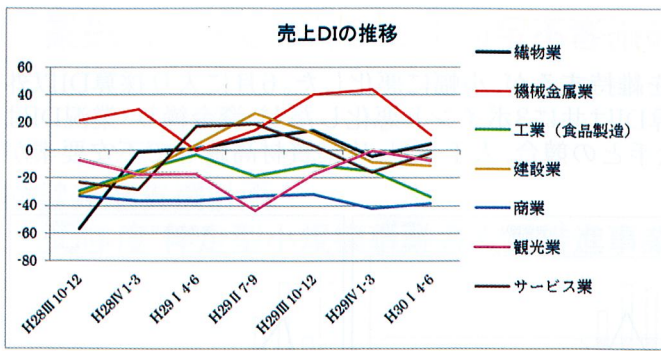
～わずかな業況改善見られるも人手不足で伸び悩む市内の小規模企業～

<調査概要>

【調査対象】地域内の小規模事業者等101件 【調査期間】2018年4月～6月
 【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングによる調査票への選択記入式

<産業全体> わずかな業況改善見られるも人手不足で伸び悩む市内の小規模企業

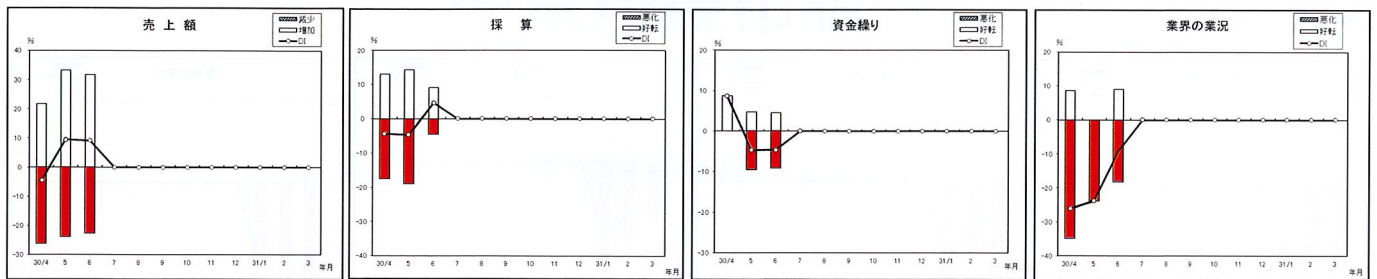
4月～6月の小規模事業者経済動向調査は、前四半期(H30.1～3月)と比較して、売上DIは不変。業況DIは6ポイント改善した。業種別にみると、これまで前四半期まで好調の続いていた機械金属業が伸び悩み、好調水準ながらも苦戦している。全業種共通して人手不足が顕著化し、経営体力の低下を招いていることから、深刻な問題として、様々な側面から早急な対策が求められている。



※上記グラフは、過去の四半期毎の該当DIの平均値を算出しグラフ化したもの

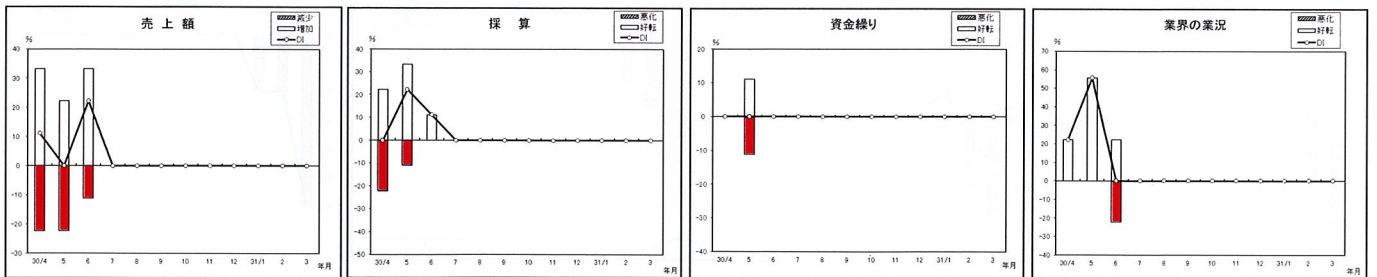
織物業 原材料高騰と織手不足が深刻化する中、わずかに改善が見られる織物業

織物業は、近年の積極的な設備投資等の甲斐もあって、資金繰りDI以外の項目においてわずかに改善が見られた。前四半期との比較においても同様であった。現在のところ、原材料の高騰面は、前倒し購入などして価格転嫁できている。一方で、経営支援員からは、一部製品の受注量は安定しつつも、織手不足・職人不足が影響し、悪いなりにも何とかやっつけている状況との報告があった。



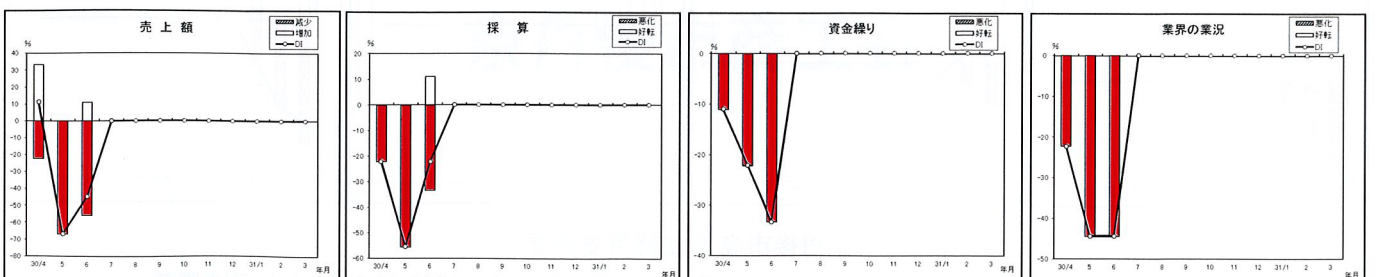
機械金属業 人手・人材不足が影響し、僅かに悪化・苦戦するも好調キープする機械金属業

機械金属業は、全ての項目において、3期連続の改善を示したが、今期、僅かに悪化に転じた。受注量は前年並みで好調をキープするも、人手不足や熟練工による人材教育による生産力低下が一時的悪化要因と考えられる。経営支援員からも、今後多くの事業所で、人手不足の対策として、製造ラインの見直し、職人の多能工化に取組み、生産効率の向上を図っていく方向との報告があった。



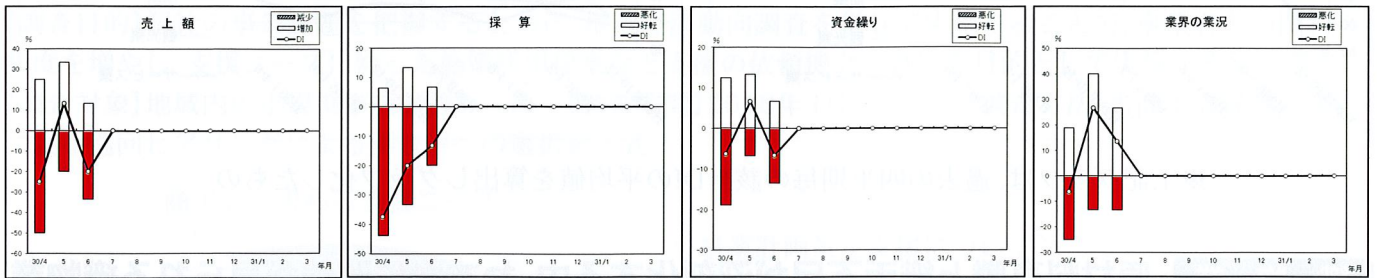
工業(食品製造) 原材料高騰が価格転嫁できず、利益確保に苦慮する工業(食品製造)

工業(食品製造)は6月に入り、売上及び採算DIは小幅に改善、業況DIは不変、資金繰りDIは2ヶ月連続で悪化した。しかし、前四半期との比較では、売上DIは20ポイント悪化した。他の項目は小幅に改善している。経営支援員からは、原材料の高騰が価格転嫁できず、高齢化する消費者の消費意欲低下も重なって、利益確保に苦慮しているとの報告があった。



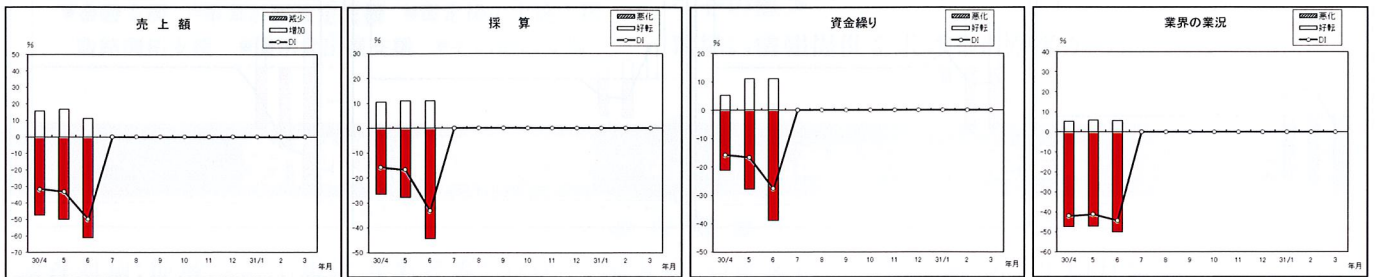
建設業 土木工事が好調も人手不足・技術者不足によって懸念が残る建設業

建設業の業況DIは、復旧関連工事等の期待感から好調を維持するが、小幅に悪化した。6月に入り採算DI以外の項目は全て悪化した。前四半期との比較では、売上・採算DIは共に3ポイント悪化した。資金繰り・業況DIは5ポイント改善した。経営支援員からは、公共工事不足、大手との競合、人手不足、建築資材高騰等で不安要素が多いとのコメントが多く見られた。



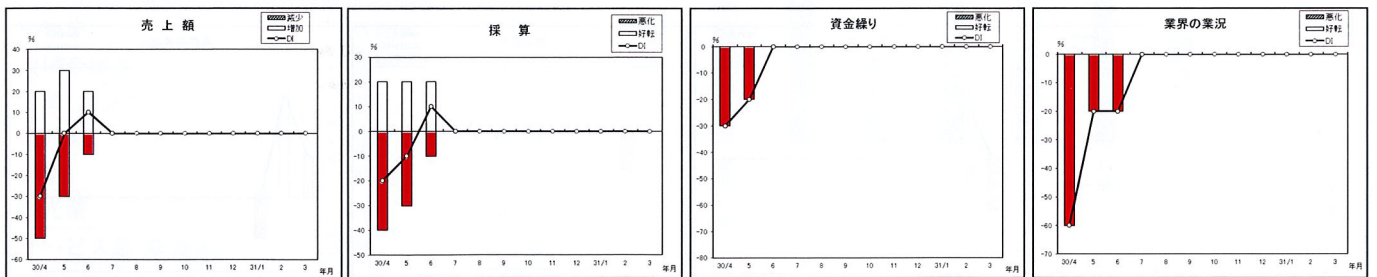
商業 一部の業態は好調も消費者の高齢化などから経営体力の低下の商業

商業は6月に入り、全ての項目において小幅に悪化した。前四半期と比較すると全項目で4ポイント～15ポイント改善を示した。一部の業態・事業所はGWの恩恵や、新店舗進出などで好調である。経営支援員からは、消費者及び取引先の高齢化、消費意欲の減退、来店頻度の低下により経営体力の低下が著しいとのコメントが多く見られた。



観光業 夏季シーズンに向けての期待感高まるも利益確保が難しい宿泊業

観光業は6月に入り、全ての項目は改善傾向を示すが、前四半期と比較すると売上DIは6ポイント、業況DIは10ポイント悪化している。経営支援員からは、一部の地域・事業所では独自の設備投資や外国人観光客の取り込みなどによって客数を伸ばしているものの、全体的に客単価がダウンしており、利益確保に苦戦しているとの報告があった。



サービス業(飲食店) 一時的な需要高まるも、原材料高騰によって楽観視できないサービス業

サービス業の売上DIは5月から僅かに改善、業況DIは2ヶ月連続改善を示し、前四半期と比較しても、全ての項目において10ポイント以上大きく改善した。しかし、経営支援員からは、天候や季節的要因、連休などの一時的な恩恵を受けるも、原材料や燃料の高騰に価格転嫁できず、人手不足も重なって、採算ベースで楽観視できないとのコメントが目立った。

